

予報期間 8月17日から8月23日まで

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 期間を通して太平洋高気圧が日本の南に張り出す。
- 19日から20日は、低気圧が沿海州付近からオホーツク海へ進み、前線が北日本を通過する。
- 21日は、低気圧がオホーツク海を北東へ進み、前線が日本の東にのびる。
- 22日から23日は、低気圧が中国東北区からサハリン付近へ進み、前線が北日本付近へのびる。

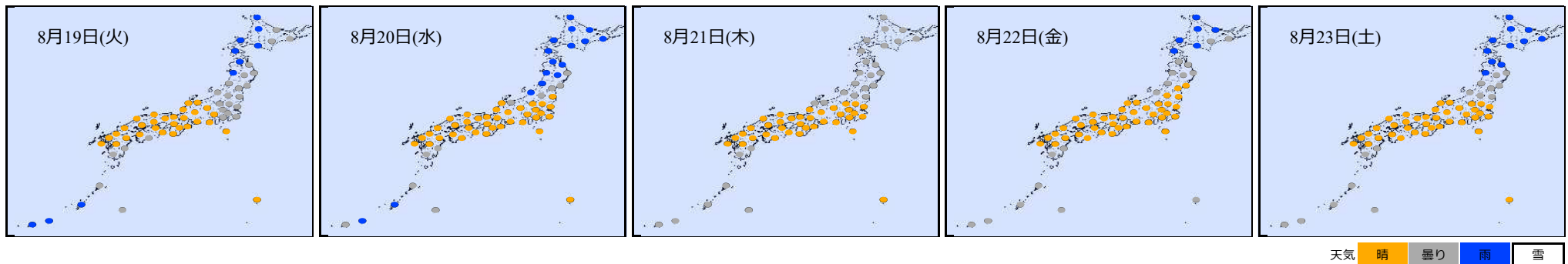
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 北日本から西日本にかけては気温が高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

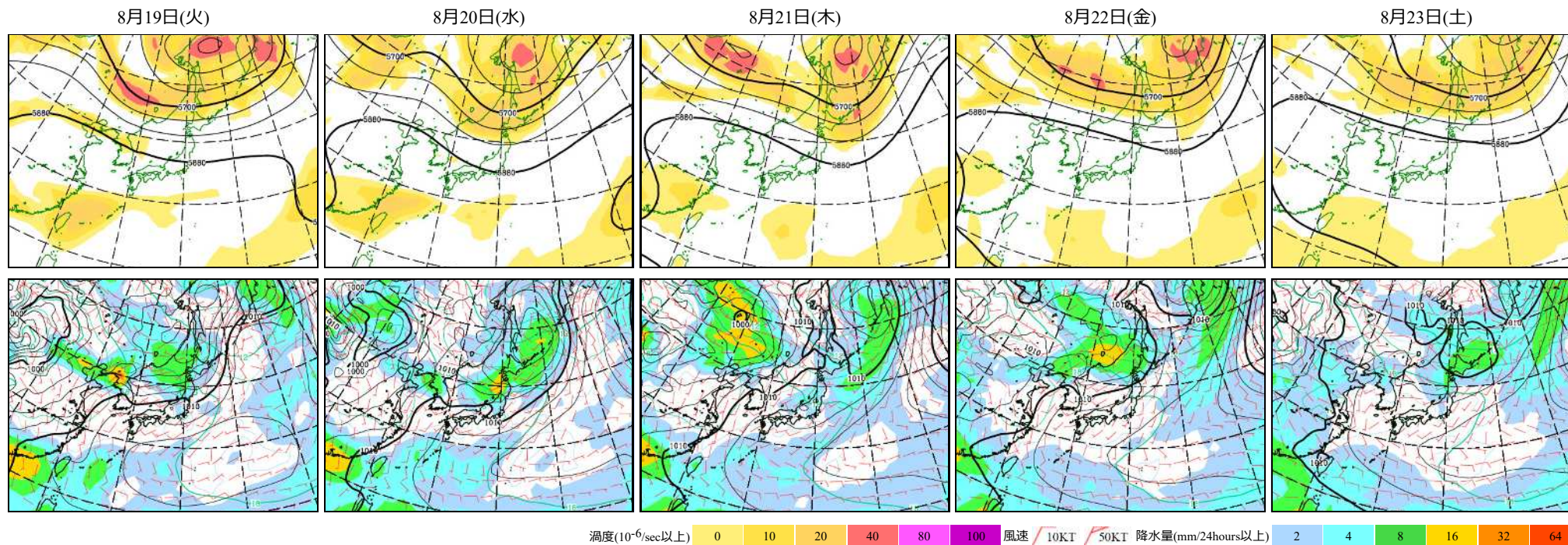
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

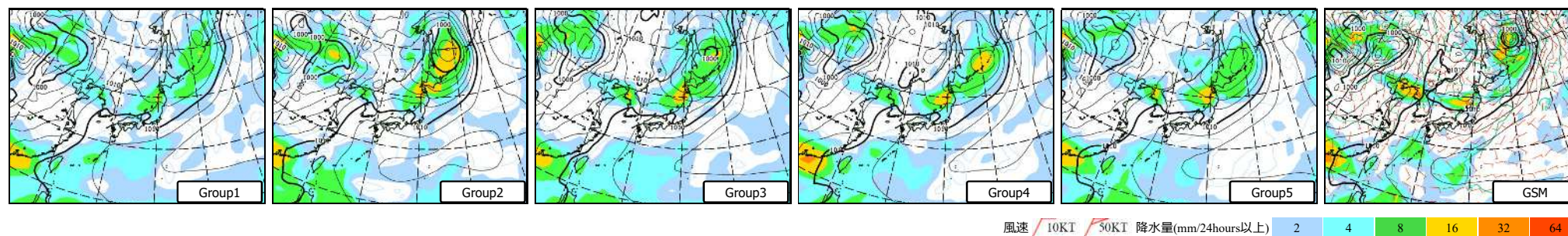


- 北日本は、晴れる所もあるが、曇りや雨の降る日が多い。
- 東日本は、晴れや曇りの日が多い。
- 西日本は、晴れる所が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、19日と20日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月20日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、20日は日本付近のトラフが深くなり、オホーツク海へ進む低気圧が明瞭となった。北日本付近のトラフの流れは初期値変わりは小さく、降水確率ガイダンスの変化は小さい。
- 各モデルとも、19日から20日と、22日から23日に北日本付近を低気圧や前線が通過する予想はおおむね揃っている。
- スプレッドは期間を通して小さいが、期間の後半は5700mの特定高度線がばらつき、サハリン付近を通過するトラフのタイミングについては不確実性がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。